

共立湖西総合病院広報

きずな

創刊号

発行／平成21年2月

〒431-0431 湖西市鷺津2259-1

電話 053-576-1231 FAX 053-576-1119

E-mail: info@hospital.kosai.shizuoka.jp

<http://www.hospital.kosai.shizuoka.jp>



昨年11月29日(土)に病院新築20年を祝うイベントを開催しました。



地域医療の中核としてありつづけるために

院長 寺田 肇



共立湖西総合病院は、昭和31年12月に開院しました町立湖西病院を前身として、老朽化した木造病院の建て替え計画とともに、昭和61年に湖西市と新居町が共同して運営する共立湖西総合病院となりました。そして、平成元年3月に現在の建物が完成し、今年で20年の節目を迎えることができました。開院以来ですと半世紀以上が経過した歴史ある病院であります。

共立湖西総合病院広報「きずな」の創刊にあたりましては、今まで「広報こういき」や病院ホームページでご案内をしておりましたが、これを機会に地域住民の皆様共立湖西総合病院を身近に感じ、より多くの事を知っていただくため、今後、定期的に発行することといたしました。

共立湖西総合病院は湖西市・新居町の中核的病院として、当院と他の病院との連携や、当院と地域の開業医との病診連携の充実を進め、地域の皆様の福祉の増進や良質な医療を安定的・継続的に提供できるよう努めております。

また、初期医療から高度専門医療、さらには、急性期医療から慢性期医療に至るまで、住民の皆様の幅広いニーズにお応えしてまいりました。

最善の医療を提供できる よう取り組んでまいります

しかし、平成16年度に始まりました新臨床研修医制度に端を発した全国的な医師不足が地方医療を脅かしている今日、当院も例外で

はありません。特に整形外科・産科の医師は不足しており、整形外科は、平成18年6月末で医師3名が退職し、今は紹介患者様のみの外来診療となっております。また産婦人科においては19年8月より、出産に対応できない状態であります。常勤医師の退職により診療できない科につきましては、浜松医科大学から非常勤医師を派遣していただき、患者様への医療サービスが低下しないように努めているところであります。

常勤医師の補充につきましては、大学への補充の働きかけや公募等を行っておりますが、医師の確保にはいたっていないのが現状であります。湖西市及び新居町の地域医療が崩壊しないようこれからも、たゆまぬ努力を続け共立湖西総合病院発展のために全力で取り組んでまいります。

病院を取り巻く環境は、大変厳しいことばかりであります。医療技術や医療器械の進歩により病気の完治や早期発見が可能となつてまいりました。当院のCTは購入後13年程経過しているため今年

1月には、短時間の撮影で血管や組織等を立体的に描き出すことができる64列式マルチスライスCT装置に更新いたしました。これにより、狭心症等の診断が心臓カテーターを使わずにできるようになり、患者様の負担を軽減できるようになります。

また、透析の患者様には当病院のベッド数が8床と少ないため、対応できる人数が限られていることから他病院へ紹介をさせていただいております。遠方の病院まで行かれ、大変ご不便をおかけしておりましたので、それを解消するためベッド数20床の透析棟の建築工事を4月から取りかかる予定しております。

今後とも患者様の医療ニーズにお応えするために努力をすべく、もとに地元の開業医の皆様や他の病院と患者様の相互の紹介や検査依頼等地域で連携を図り、皆様にとりまして最善の医療を提供できるよう、職員一同取り組んでまいりたいと考えております。皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

看護部の取り組み



「安全・安心・思いやりの看護」を目指して

看護部長 袴田 高子

看護部では、病院の理念である「信頼・貢献」を基本としつつ、「安全・安心・思いやりの看護」を掲げ、自律した看護師の育成に取り組んでおります。

教育体制については、段階別教育を実施し臨床実践能力を身に付けるようにしています。この教育段階に連動した目標管理体制も軌道に乗りつつあり、看護師ひとりひとりが目標達成に向けて、さらにキャリアアップするよう取り組んでいます。

【看護師として】

①常に患者様の視点にたつことを忘れない

②看護に情熱をもっていること
③看護師としての倫理観をもっていること

④目標をもっていること
⑤看護に誇りをもっていること
この5点を大切にしながら看護部理念の実践に努力しています。

今後とも地

域の皆様にご
えていただき
ながら、地域
医療を担う一
員として、な
お一層の看護
の質の向上を
目指してまい
ります。



薬剤師の仕事

病院を舞台にしたテレビドラマでは、主にお医者さんか看護師さんが主役として描かれ、残念ながら薬剤師は出演場面さえもなく、皆様になかなか薬剤師の仕事がわかってもらえません。それは、薬剤師が外来のお薬窓口以外、患者様の目にする場所で仕事をする機会が少なかつたためではないかと

思われます。

しかし、最近の薬剤師の業務は、入院中の患者様へお薬の飲み方や使い方、入院前に飲んでいたお薬や健康食品との相互作用、今お使いのお薬の副作用などを説明する「薬剤管理指導業務」が大きなウェイトを占めるようになりました。あわせて、処方内容の検討、内服薬の管理、注射薬の調製、栄養管理への参画など、いわゆるチーム医療の一員として病棟で活動することが主となってきました。

入院中の患者様は、お薬のことについてご不明なことがあれば気軽に薬剤師にご相談ください。薬剤師はいつもあなたの近くにいます。



気軽に薬剤師にご相談ください

透析棟建築に伴うお知らせ



現在当院においては、8床で32人の透析患者様の受入をしておりますが、病床が少ないため他院での治療をお願いしている患者様も少なくありません。患者様の利便を考え、できる限り当院で治療していただくよう病床数を増やすため透析棟の増築工事を実施いたします。

工事は、平成21年4月から概ね10ヶ月程度かかる予定です。その間全ての患者様、関係者各位におかれましては、駐車場や院内への出入りに大変ご迷惑をお掛けするようになるかと思いますので、ご理解ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

なお、工事期間中の規制等のお知らせは、院内掲示や現場表示をさせていただきますので、必ずご確認いただきますようお願いいたします。

診療技術部放射線科

診療技術部は、「放射線科」、「臨床支援科」、「理学療法科」、「栄養科」、から成ります。放射線科は、高磁場MRI装置・マルチスライスCT装置・血管造影撮影装置など、高性能な画像診断装置を用いて各種疾患の画像検査を行い、患者様の診断に貢献しております。勤務体系は「病院」・「健診センター」・「検診車」業務をローテーションで働いています。

365日24時間の救急医療に対応

病院での画像検査は、外来診療時間以外も常時待機体制で、365日24時間の救急医療に対応しており、一般撮影、CT撮影、透視撮影等、いつでも検査が行える体制になっています。

放射線科では、患者様が心から安心して気持ちよく検査を受けていただけるよう、スタッフひとりひとりが「思いやり」の精神を持って接するよう心がけております。検査内容や医療被ばくなど疑問に感じることがありましたら、遠慮なくお尋ねください。



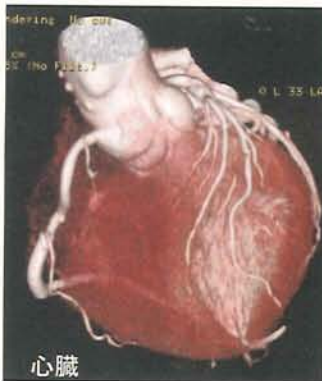
マルチスライスCT装置を導入

医療機器整備の一環としてCT装置を最新型全身用コンピュータ断層撮影システム（64列式マルチスライスCT）に入れ替え、今年1月19日より稼動いたしました。

従来のCTシステムと比較して、短い時間で高精度かつ多機能な画像解析が可能となり、診断能力が高まります。

■システムの特徴として

- ① 撮影時間が短く、患者様の負担を軽減します
- ② 高精細、正確に病変や組織を描き出します
- ③ 高精度な心臓解析
- ④ 初期脳梗塞の診断（血流解析）



心臓



脳頸部血管



胸腹血管

などがあります。検査は、5分程度ベッドに寝ているだけで終了します。（検査内容により時間は多少異なります）一回の撮影で同時に複数の輪切り像が得られるマルチスライスCTスキャナですので、得られた画像から左図のような精密な立体画像を作ることにも可能です。



脳解析

医療被ばく



Q 放射線は有害と聞きました。胸部集団検診を毎年受けて大丈夫ですか？

A 胸部検診程度の被ばくでは影響が現れることはありません。

Q 一回に何回まで撮影しても大丈夫ですか？

A 身体は複雑な構造をしているのでX線検査をする部位によって様々な角度から撮影する必要があります。医師が必要と判断した必要最小限の枚数分だけ撮影します。枚数制限は特にありません。

Q 一年間に何回まで撮影しても大丈夫ですか？

A 病気で医療機関を受診されている方は、被ばくのデメリットよりも、病態の把握と経過観察という診断のメリットの方がはるかに大きいので、必要な検査は回数を気にせずに受けることをお勧めします。

（参考文献）医療被ばくガイドライン

診療技術部 臨床支援科



▲専門分野の認定を取り、超音波診断装置で検査をする臨床検査技師



▲負荷心電図装置のトレッドミル検査で、心電図・血圧を注意深く観察する医師

臨床支援科には、臨床検査技師と臨床工学士が所属しています。

臨床検査技師の行っている仕事は、患者様の体から採取された血液や尿を検査する検体検査と、患者様の体を直接検査する生理機能検査に大別されます。

臨床工学士は、生命に関わる医療器械の操作・保守・点検を行っています。特に、生命維持装置においては、専門性が生かされ、緊急時に安心して機械が使えるよう、入念な維持管理に努めております。

検体検査

検体検査の尿からは、腎臓・尿管・膀胱の異常がわかり、血液検査からは、貧血・炎症・腎臓機能・肝臓機能などがわかります。

生理機能検査

生理機能検査には、超音波・心電図・肺機能・脳波検査などがあります。

超音波検査

超音波検査では腹部・心臓・血

管・甲状腺・リンパ節・乳腺

など、体のほぼ全領域を体によさしく観察することができ

心電図検査

心電図では、心筋梗塞・狭心症・不整脈などがわかります。

脳波検査

脳波では、脳の機能がわかり、てんかんなどの診断に役立ちます。

肺機能検査

肺機能検査では、気管支喘息などの慢性疾患をはじめ、肺繊維症・呼吸不全などの診断にも役立ちます。

心筋梗塞は、

左胸が痛くなる？

心筋梗塞のほとんどの方は、左胸の痛みを訴えて病院にいられます。しかし、なかには、次のような症状の方もみえます。

- 胃が痛い
- 胃がむかむかして気持ち悪い
- 左肩が急に痛くなった
- 喉が急に痛くなった
- 喉がふさがるような感じ

このような症状は、一般的には、胃・肩・喉の異常です。しかし、まれに心筋梗塞で、このような症状がでることがあります。急にいつもと違う症状が出たら、病院に行きましょう。

なかには全く痛みのない方もいらっしゃるようです。高齢者・糖尿病の方に多いようです。なんだか息がしにくい、脈が不規則に打つみたい、脈が早いようだ、こんな症状がありましたら、循環器科を受診してみてください。心筋梗塞が隠れているかもしれません。

特定健診・ 特定保健指導が はじまっています

平成20年4月から、メタボリックシンドローム予防の強化を目指す「特定健診・特定保健指導」がはじまりました。40歳から74歳の被保険者と被扶養者の方が健診を受けることができます。

※各健保組合により検査指定病院が異なります。加入している健保組合へお問い合わせ下さい。

この特定健診は「内臓脂肪肥満」に着目した生活習慣病予防のための健診です。健診の項目を紹介いたします。

《必須項目》

- ◆ 質問表
- ◆ 身体測定
(身長・体重・腹囲測定)
- ◆ 身体診察
- ◆ 血圧測定
- ◆ 血液検査
(脂質・血糖・肝機能検査)
- ◆ 尿検査

このうち、腹囲測定は今までになかった測定です。メジャーがあれば、体重と同じようにどなたにでも測定できます。オヘソの高さの腹周りを測定してみてください。

腹囲

男性 85 cm以上
女性 90 cm以上

が生活習慣病のリスクを判定する項目の一つになります。



腹囲測定器「メタ・メジャー」

内臓脂肪を減らすポイント

①内臓脂肪は運動で燃える

内臓脂肪は体を動かすとすぐに燃えやすい特徴があります。散歩等で体を動かしましょう。

②食事のバランスを改善しよう

夜食、間食をやめて野菜、海草、きのこ類を多く摂り、よく噛んでゆっくり食べましょう。

③ベルトの穴にこだわろう

体重よりベルトの穴の位置を目安にしましょう。



期発見・早期治療がもっとも大切です。

年に一度は健診を受けましょう。

(健診センター)

小児科から

アレルギー(喘息)教室
開催のお知らせ

当院小児科では、こどものアレルギー疾患(喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー)について、患者様とご家族の方により深く知っていただくために、月1回第3金曜日に教室を開催しております。

関心のある方はぜひご参加下さい。無料です。

日時 2月20日(金)

16時~17時

場所 当病院2階講堂

内容 第8回喘息教室

(3月は都合によりお休みです)

次回予定

4月17日(金) 16時~17時

第9回食物アレルギー教室です。

※詳細は小児科外来へお尋ね下さい。
☎576-7302

医師

看護師を

募集しています

問合せ先総務課
TEL 576-1231